

再開を１１時５分といたします。

暫時休憩いたします。

〈午前１０時５８分休憩〉

〈午前１１時０５分開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。〔１７番 保坂 悟君登壇〕

○１７番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、１回目の質問を行います。

１、駅北遊び広場のにぎわいづくりについて。

（１）駅北遊び広場の施設整備費について。

① 当初計画の整備費１４億８，０００万円から、駅北遊び広場４億５，０００万円と駅北外の屋内遊戯場８，０００万円で９億５，０００万円を縮小した。一方で当初計画の機能は縮減し「子育て支援に資する施設」という補助金の条件の下で、駅北に親子連れの家族が集まり、子供から大人まで集まるという目的は達成できるのか。

② もともと手元にない復興への投資的費用９億５，０００万円の減額は、市民や市にとって一体、何に生かされることになるのか。

（２）施設運営費について。

① 当初計画の運営費は年間５，０００万円だったが、ＤＢＯ方式により専門の運営人員は保証されていた。一方の２か所の運営費は約４，２００万円で、８００万円縮減しているが、人手不足と物価高の中で本当に駅北遊び広場と屋内遊戯場の専門の運営人員の確保はできるのか。

（３）市が目標とする「駅北大火からの復興の姿」について。

① 駅北のにぎわいづくりの目的は何をもって達成されるのか。

② 駅北のにぎわいづくりの主体者は誰なのか。

③ 駅北の地域住民によるにぎわいづくりの住民総意の具体案はあるのか。

④ 駅北の遊び広場について「体験格差の解消となる子どもたちの成長に資する体験活動」を行う形のにぎわいづくりを考えているか。

２、知的財産（ＩＰ）ポケモンを活用したまちづくりについて。

（１）ポケモンなどの人気コンテンツの活用について。

糸魚川市には「ヒスイ」と「ラピスラズリ」がある。ポケモンの世界観に「ヒスイ地方」

と「ラピスラズリ湖畔」がある。糸魚川市とポケモンの親和性を活用して地域振興と交流人口の拡大を行う考えはあるか。

(2) ポケモンマンホール「ポケふた」の誘致について。

「ポケふた」は株式会社ポケモンから承認された自治体へ無償で寄贈される。全国のファンがその写真を撮りに来るので観光地となる。街なかの回遊促進のために誘致の交渉を行う考えはあるか。

(3) 「ポケモンローカルA c t s」への参画について。

新潟県の「推しポケモン」が決定するとポケモンのキャラクターを無償で利用できる制度である。新潟県と協力して獲得する考えはあるか。

(4) 「ポケモンGOフェスト」の誘致について。

「ポケモンGO」というゲームの大イベントで、国内外からファンが参加し経済効果は抜群である。新潟市を中心に世界遺産のある佐渡市、世界のニシキゴイでポケふたのある小千谷市、世界ジオパークの糸魚川市で、サテライト開催市というコンセプトで新潟県に企画提案する考えはあるか。

3、大糸線の観光鉄道化について。

大糸線は糸魚川から南小谷区間で100円稼ぐのに2,132円かかる赤字路線で、沿線住民の人口減少や車社会に伴い利用者が少ない。そこで、もともと人が少ない沿線住民の足として稼ぐのではなく、観光列車のように乗車を目的とした付加価値のある企画列車として稼ぐべきである。稼ぎ頭の新幹線でさえ、エヴァンゲリオン、ハローキティ、ワンピース、機動戦士ガンダム、ディズニーシリーズなどの特別企画列車を行っている。今後はゆっくり走るスイスの山岳鉄道やポケモンの世界観を生かした「ヒスイ地方鉄道」として、新しい誘客プロジェクトを立てて稼ぐべきである。さらにAIによる利用客動向管理システムを導入して料金変動を行うことや無人駅を活用したオリジナルショップを展開するなど、稼ぐ観光鉄道にかじを切るべく関係団体、関係会社と協議すべきと考える。そこで伺う。

(1) 大糸線を観光資源として市はどのように評価しているか。

(2) 観光鉄道としての活用について、積極的に研究検討する考えはあるか。

(3) 地域団体、観光事業者、JR、県などと連携して観光列車やイベント列車などの「乗車が目的となる仕掛け」について検討する考えはあるか。

4、海洋高校を活用したシティプロモーションについて。

現在、フジテレビ系列で「サバ缶、宇宙へ行く」というドラマが放送されている。内容は福井県の水産高校の生徒たちがサバ缶を宇宙食として開発し、宇宙を目指した実話を基にしたものである。これを見て率直に糸魚川市にも最後の一滴、能水商店、ノドグロの養殖、アンテナショップなど、ドラマになる実績があると考ええる。そこで、糸魚川市にある海洋高校の実績や挑戦する姿を広く全国に知らせる取組を行うべきと考える。もちろん、糸魚川市がドラマを制作するのではなく、海洋高校の様々な取組を支援し、過去から未来に向けてのリアルなドラマづくりを行うものである。

(1) 海洋高校の魅力や教育的価値について、どのように認識しているか。

(2) 海洋高校を題材としたドラマ、映像作品、ドキュメンタリーなどによる情報発信について研究する考えはあるか。

(3) 県や学校、放送局、制作会社などと連携して、ロケ誘致や映像制作を活用したシティプロモーションに取り組む考えはあるか。

(4) 昨今の不安定な世界情勢を直視する中で、島国日本における水産物の価値や、水産や海洋運搬における船舶の価値を再確認してもらう機会を創出し、海洋高校の高専化への理解を深める機会とする考えはあるか。

5、気になる諸課題について。

(1) 感震ブレーカーの普及促進のため、設置補助制度の創設について。

① 一人暮らし世帯や高齢者世帯、空き家であっても通電している家屋への設置に向けて積極的に検討する考えはあるか。

(2) 侵入窃盗対策について。

① 防犯カメラの個人設置補助制度を創設し、市民による監視力の強化をする考えはあるか。

② 市内で侵入窃盗があった場合の注意喚起について、事件発生後の安心メールの発信が遅く感じる。危険回避の観点から、どこの地域で窃盗があったかなど、市民への周知方法を検討すべきではないか。

(3) 子供のクラブ活動における遠征費の負担軽減について。

① 全国大会等へ出場する小中高生への激励金制度はあるが、遠征費・宿泊費の負担は依然として大きいものである。子供たちの家庭の経済状況にかかわらず、気持ちよく挑戦できるように支援制度の拡充をする考えはあるか。

(4) 学校図書館の役割について。

① 学校図書館の購入状況と読書の楽しみ方の普及についてはどうなっているか。

② 昨年の市長による地区懇談会で話していた学校図書館の市民開放はどのように行われるのか。学校図書館と市民図書館等のすみ分けはどうなるのか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目の整備目的につきましては、大規模な施設から汎用性のある広場へ転換いたしましたが、当初の目的を継承し、子供から大人まで、多くの市民にご利用いただけるよう努めてまいります。

2つ目の費用の減額分につきましては、市の一般財源負担が減少することで、子育て支援を含めたほかの重要施策への活用が可能となります。

2点目の人員確保につきましては、市の直営により、専門職の確保に努めてまいります。

3点目の1つ目の目的の達成につきましては、商店や広場などの単体では駅北のにぎわいは創出されません。地区全体の複合的な取組の中で、民間事業者も含めた主体的な参入を通じて、にぎわいが生まれるものと考えております。

2つ目の主体者につきましては、市、民間事業者、地域住民、商店街がおのの役割を果たす

ことで、駅北のにぎわいが生まれてくるものと考えております。

3つ目の具体案につきましては、駅北まちづくり戦略において、まちなか大家族と示し、地域資源を活用した実践活動の推進をうたっております。

4つ目の体験活動につきましては、地域住民や民間事業者・団体等との連携により、子供の成長に資する体験機会を創出するよう努めてまいります。

2番目の1点目のポケモン活用につきましては、今年5月にヒスイ地方等を生かした連携について運営会社に問合せをいたしました。現在は対応が難しいとの回答をいただいております。

2点目のポケふた誘致につきましては、当市を含め全国の自治体から、製造予定数を上回る要望が寄せられていますが、現在、新規設置希望の受付が停止されております。

3点目のポケモンローカルA c t sと4点目のポケモンG oフェストにつきましては、主体となる県と関係機関の意向を確認しながら、調整を図る必要があると考えております。

ポケモンG oフェストは、東京や大阪など大都市で実施されておりますが、地方都市での開催実績がないことから、現時点では、判断が困難な状況であります。

3番目の大糸線につきましては、国際的な観光地となっている白馬エリアへのアクセスとして、美しい姫川溪谷を縫うように走る、重要な観光資源として捉えております。

また、観光鉄道化につきましては、現在、設置されている大糸線の在り方検討会議において、鉄路活用の手法の一つとして検討する必要があると考えております。

4番目の1点目の海洋高校の魅力や教育的価値につきましては、県内唯一の水産高校で、全国的に見ても特色のある教育活動を実践しているほか、相撲やスキューバダイビングといった部活動でも全国レベルの活躍があり、市外から多くの生徒が目指す高校であると認識しております。

2点目と3点目の情報発信やシティプロモーションにつきましては、現時点では、市が主体的に取り組む予定はありませんが、引き続き、学校の特色や魅力を発信してまいります。

4点目の高専化につきましては、実現すればさらなる特色化、魅力化につながるものと考えており、県と情報交換を進める中で、その可能性を探ってまいります。

5番目の1点目の感震ブレーカーの補助制度につきましては、引き続き、国・県の動向を調査研究してまいります。

2点目の1つ目の個人向け防犯カメラの補助制度につきましては、現時点では検討しておりません。

市といたしましては、既に運用しております自治会等への補助制度を活用いただき、個人単位ではなく地区全体で死角や通学路をカバーすることが、地区の安全確保に効果的であると考えております。

2つ目の侵入窃盗があった場合の注意喚起につきまして、事案発生後に警察からの依頼を受け、配信しております。

配信する内容や時期について、引き続き、警察と協議してまいります。

3点目のクラブ活動における遠征費の負担軽減につきましては、当市では、市立学校に通う児童生徒が小・中学校体育連盟等の主催する大会に参加する際は、参加費や交通費については全額、宿泊費や器材運搬等については、その経費の一部を補助しており、今後も継続してまいります。

4点目の1つ目の学校図書の購入状況につきましては、各校において教職員と子供で図書選定を

行い、学級数に応じた蔵書数を目安に購入しており、一部の学校では後援会等からの支援により、図書の充実を図っております。

また、読書の楽しみ方の普及につきましては、各校で作成している図書館教育計画に基づき、読書活動、図書室の利用促進を図っております。

2つ目の図書館の市民開放につきましては、学校の図書室を市民に開放する場合、不特定多数の利用者が出入りするため、セキュリティ面が課題と捉えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度の質問によりましては所管の課長からの答弁もあります。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

では、順番どおり質問させていただきます。

まず、駅北の施設整備費についてであります。

①番ですが、施設整備の9億5,000万円のコストカットに集中するあまり、当初の想定した効果や市長が描いているにぎわいというのが、私は見込めないんじゃないかな思ってるんですけども、その辺、大胆なコストカットにより、当初の駅北のにぎわいというものの想定から見たときに、にぎわいというものが確保できるのか、その辺お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども家庭課長。〔こども家庭課長 室橋淳次君登壇〕

○こども家庭課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

確かに事業費といたしましては、議員おっしゃるとおり、駅北のところにしましては、広場ということで変換いたしましたので、事業費としては大幅に減額となっております。

ただ、子育てを中心とした機能としながらも、以前の計画からもそうではありますが、子供から大人まで多世代の方が交流できるような場所ということで、居心地のいい場所をつくりたいといったところで考えておりますので、そういった中で、今後、計画を詰めていく中で、多くの方からご利用いただけるような施設となるよう努めてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

今、漠然とした回答かなと思うんですね。それはなぜか。

多分、市民それぞれにとって、駅北に対する思いとか期待が全然ばらばらだと思うんですね。だから、当初の計画は比較的箱物で、そこにいろんな機能がたくさんあったということで、比較的理解しやすかった。でも汎用性ということで、一見便利な言葉ではあるんですが、何をするのか分からない。そういったところをきちんと市民周知しながら、こういったことに取り組んでいくんだというメニューも紹介しないと、ただ広場を造りましたよでは、本当の意味での期待に応える形にはならないのであるというふうに思いますので、そこは注意をしていただきたいと思います。

次、②番です。もともと手元にない9億5,000万の縮減でありますけども、当初、計画のパブリックコメントや議会での議論の中では、9億5,000万円を削減したことで、あたかも子育てや福祉の事業にそのお金が使えると思っている市民が多くいたというふうに認識しております。

誤解のないようにしておく意味でも、9億5,000万円の縮減が、糸魚川市の未来に寄与する部分を改めてどういうものなのかというところを言っておかないといけないんじゃないかなと思うんですが、その辺どういうふうに市民説明できますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども家庭課長。〔こども家庭課長 室橋淳次君登壇〕

○こども家庭課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

9億5,000万円の減額が、そのまま具体的にこういったものに寄与できますというところでは、今の段階では申し上げられないかというふうには思っております。

ただ、当初、駅北で想定しておりました子供のための屋内遊戯場につきましては、別のところで計画はさせていただいておりますので、そういったところで市民の子育て世代のほうにはしっかりと寄与していきたいと思っておりますし、負担の部分が減ってきたというところにつきましては、最初の市長答弁で申し上げましたように、市の財政も厳しくなる中で、ほかの事業等に有効に活用できるものというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

そこで、もっと分かりやすくいうと、もともとない9億5,000万円という見方をすれば、実質的には当初計画の市の実質負担額というのは2億7,000万円を想定しておりました。今回の現行の計画、2か所の整備費でいくと、両方合わせて1億2,000万円の費用負担、要は、1億5,000万円は明確に市の負担が縮減されているわけです。その1億5,000万円で当初持っていた機能がなくなった部分、当初、考えられていた経済効果、そういったものがなくなるということで、縮減した1億5,000万円を具体的に何に使うのかとか、何に反映するのかという説明があれば、その9億5,000万円の減額の意味も見えてくるんじゃないかなと思うんですけども、そういった報告なり説明なりって、私なかったと思うんですけども、この際、そういった部分の

1億5,000万円減額したところの活用、または将来に対する投資みたいなもので説明ができれば、お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども家庭課長。〔こども家庭課長 室橋淳次君登壇〕

○こども家庭課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

実際、議員おっしゃるとおり、この事業に対する市の負担額といたしましては1億5,000万円程度の純粋な負担額というものが減ってきているといったところはあるかと思っておりますが、じゃ、それがどのような形で、これから先、反映されていくかといったところについては、毎年度、予算というものは議会のほうにお示ししながら進めさせていただいておりますので、そういった中での財政負担の軽減とかというところにもつながると思っておりますし、また今後、新たな子育て支援策を含めたほかの重要な事業、そういったところに対しての財政的な余裕といったところにはつながっていくというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

具体的には言えないのかもしれませんが、ただ、私、一番恐れているのは、投資的費用について、小さくすることが、何かすばらしいみたいな、縮減することが画期的なんだという思考だけでいくと、将来に対する投資ですから、10年後、20年後を見たときに、必要なものに対してまで縮減されてしまうと困るなという、またその代表例になっても困るなということで、今回その1億5,000万円については、また子育てに使うんであれ、福祉に使うんであれ、また、まちづくりに使うんであれ、何かしらやっぱり示していったほうが行政にとってもよろしいんじゃないかということで指摘させていただきました。

次に、（2）の施設運営費についてであります。

駅北遊び広場は、委託の予定になっておりますが、子育て支援団体や子供教育関連団体、もしくはNPO法人などのめどというものはどうなっているのか。

まだ、これは、逆に募集なりなんなりとアプローチをしてはいけない時期なのかは分かりませんが、そういったスケジュールについても、決め方についてもちょっと教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども家庭課長。〔こども家庭課長 室橋淳次君登壇〕

○こども家庭課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

遊び広場につきましては、当初、委託というところも想定しておりましたけれども、3月の予算

委員会等でも、議会のほうからもご意見いただきまして、今のところ直営という方向で考えております。

ただ、今、市内でも子供の遊びに対応できる、そういった法人、NPO法人ですとか一般社団法人みたいなものが生まれてきておりますので、そういったところに対して知識をいただきながら、また、対応いただきながらといったところも、併せて検討はさせていただきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

今ほどは直営ということでありまして、直営というところであれば、市の職員、あるいは会計年度任用職員となった場合、専門性を持ったそういう、何ていうのかな、子供の遊びであるとか、また子育てについての知識とか、そういった部分での人を、専門家を、何ていうのかな、そこに配置してくれるのか。いや、そうじゃないんだと。事務レベルで、ただ、施設の管理という部分で配属するんだというので、全然大きく違ってきますし、あと、当初は委託であったり民間であれば人件費を、DBOであれば相手方に任せられたんですけど、今回、自前でやるということになれば、人件費のカウントの仕方も当然、経験年数が高い人もいれば当然、高額になりますし、若い人であれば、安くは使えるかもしれないけども、当初の目的の専門性とか経験上できることとかという幅がまた限られてくるので、そういったところを直営の場合、どのような人件費のことと専門性、質の問題は、どのように考えてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども家庭課長。〔こども家庭課長 室橋淳次君登壇〕

○こども家庭課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

こちらの遊びの広場でも、子供の見取りといいますか、そういったところでの専門性は、重要というふうに捉えておりますので、保育士等のそういった資格を有するものの配置といったところを念頭に置きながら、また一方で、施設管理といった部分では、実務的な、事務的な部分でありますので、そういったところについては、特段資格者ではなくてもいいというふうには理解しておりますので、そういったところを組み合わせながら、人員配置のほうも今後、検討して詰めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

同様に、駅北外に出た、既存施設の屋内遊戯場は、これはもともと直営だったという認識で、子育て支援センターの職員と市の職員が配置される。これも同様に、その職員がどういった質という



か経験があつておられるのか。また人件費の関係もどういふふうに見ていくのかというところをちょっと教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども家庭課長。〔こども家庭課長 室橋淳次君登壇〕

○こども家庭課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

こちらの全天候型の子ども遊戯場のほうにつきましても、屋内遊戯場ということで、これまでも市内では、児童館のほうでは、以前、児童厚生員と言っておりましたけれども、子供の遊びを指導するものといったような形で、そういった子供の遊びに関してしっかりと見取りのできる職員といったところを想定しておりますし、あわせて、こちらの施設については、子育て支援センターの移設といったところも考えておりますので、そういった面では保育士資格等そういった専門の資格を持った職員の配置といったところを検討しているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

今のご答弁に少し安心しました。私ここにすごくこだわる理由がございましてね、過去に、平成22年度に中央保育園の遊戯室を、休日に開放するわんぱくホリデーを糸魚川市は取り組んでいたいただきました。

ただ、このときに、要は施設管理だけのスタッフが配置されておまして、要は親子連れの方にアドバイスするだとか、遊びをレクチャーするだとか、そういったものがなされなかったもので、来た人が非常につままないという部分と、あと明るい雰囲気とか楽しい雰囲気が演出されてなかったもので、本当にただ空き空間というそういう感じだったものですから、そういったことをしっかり教訓にしてですね、この屋内遊戯施設については明るく楽しい、何回も行きたくなるなという、そういう、何ていうのかな、構想を持ってやらないと、ただ道具があるからいいわ、ただ安全管理の人がいるからいいわみたいなものにはしないほしいということで、あえて質問させていただきましたので、ぜひよろしく願いいたします。

続きまして、（3）市が目標とする駅北の復興の姿であります。

この駅北の広場についての目的なんですけども、今現在考えてるのは、人を集めることが最大の目的なのか、駅北の経済活動が活性化することが最大の目的なのか、それとも地域住民の利便性、ここに住んどってよかったわ、だから駅北好きなんだわというふうにしていくのが最大の目的なのか、それとも市外から、やっぱり駅北のことを知ってもらおうということで、観光誘客というところが最大の目的なのか、その辺の捉え方によって取っかかる内容が全然変わってくるかと思うんですね。その辺はどのように捉えて、どのように対応していくのか、その辺をちょっと教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども家庭課長。〔こども家庭課長 室橋淳次君登壇〕

○こども家庭課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

もともとの計画地につきましては、にぎわいの拠点というような言い方をされたりもしていましたが、市のほうで当時、にぎわいといったところの定義は何かといったところも詰めていく中で、やはり人が集まる場所であるといったところの経過を踏まえて、こちらの計画地につきましては、市の行政の持つ機能としてですね、まずは人が集まる機能をそちらに設置していくというようなところで、もともとの、以前の計画のほうが進められてきたというふうに認識しております。

そういった集まってきた人たちが、さらにその施設だけにとまらずに商店街のほうに回遊したりといったところを踏まえて、全体のにぎわいが生まれてくる。それは駅北まちづくり戦略の中でも複数分散型というようなことで言われておりますし、そういったところを踏まえながら、全体のにぎわい、活性化というものが図られていくというふうに認識しております。そういったところがさらに大きくなっていくことによりまして、市外からの誘客、そういったところも見込まれるのではないかというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

そうすると人を集めることが最大の目的であるということであれば、先ほどほかの経済活動だとか地域住民だとか、誘客という部分は少しランクを下げて捉えていいかなと思います。

そうなった場合、目標が明確になれば、今度その目的に対していろんな手段が考えられるかと思うんですね。そこは、もう人を集めるってことをしっかり宣言して、いろんなところに投げかけしていかないと、何ていうんだ、後になってそんな目的ではなかったわとかね、そうなるのが一番恐ろしいので、そこはしっかり明確にうたった上で、各団体や事業者だとか、その住民の方とかには、そういった意味でコンセプトで話していけばいいんですけど、正直言って私も初めて聞いたような格好なんですけども、それは本当に、市として間違いなく人を集めることを主眼に置いてやる広場ということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

今、課長のほうからお答えさせていただきました。

まず、人をどういうふうにしてこの場所、駅北のほうに、まず一旦誘導してくるのかということが最初の目標であって、最終的な目的については、私自身の考えとしては、この駅北という部分は、施設を造ることじゃなくてエリアのリノベーションを考えた上での施設ありきという部分で考えて

おります。

エリアリノベーションという部分を、定義を探てみますと、空き家、空き店舗などの不動産や公共空間を民間主導で再生させ、その動きを一定のエリア内で連鎖的に起こすことで地域全体の価値や魅力を高めるまちづくりの手法というふうに定義されております。その中において、官が整備する駅北の施設については、この広場を起点にして回遊性、流動性、そしてまた、その延長線にあるまちづくりに資するものとしてやっぱり考えていくということで1つの提案をさせていただいたということでございます。

次の、駅北の町なかの大火からの復興のフェーズから、次のフェーズに移る意味で、整備計画を立てながら、目的と目標に資するような形で対応させていただければと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

今、人が集まるところを強調しましたが、その経済活動だとか地域住民だとか、そういうところを否定してるわけじゃありません。要は最大の、要は何ていうの、登山でいう頂上がやっぱり人が集めるところなんだという、あと、どのルートからそれを集める手段は、何があってもいいと思います。

ただ、最終的に人が集まる、こんだけ人口が集まるようなエリアになったんだというところが5年後、10年後、そういったときに、ちゃんとその目標が達成できるような、そういう何ていうのかな、仕組みになってないと私は意味がないと思ってるので、その目標に向けてしっかり向かってやっていただきたいと思っております。

その上で、今、市長ご答弁いただいたんですけど、それが分かってくると、今度、行政が主導でやる内容と、あと、その商店街等が主導でやる内容と、あと地域住民が主体性を持ってやることというのはだんだん見えてくるかと思うんですね。これを誰がコーディネートするのかなというのを教えてほしいんですよ。それがないと、もう全然何、糸の切れたタコみたいなものに、みんな好き勝手なことをやって、最終的な大勢の人間をこのエリアに集めるんだというものが明確に見えてこなくなってしまうので、そこをぜひ誰が取りまとめて、誰がその辺をこうコントロールしながらやっていくのか。もっとギブ・アンド・テイクできるようにやっていくのかというところが見えないものですから、その辺を教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎都市建設課長。〔都市建設課長 長崎英昭君登壇〕

○都市建設課長（長崎英昭君）

おはようございます。

今ほど議員のほうからご提言といたしますか、ありましたとおり、やはり人を集めるということが目的になります。

今ほどおっしゃったように、やはり行政主導と地域住民が、コンセプトといたしますか、どこを境

界にするかということで、決めることが大事になってくるかと思いますので、ちょっと、この場ですぐ誰かということは明言できないんですけども、この件に関しましては担当課で調整させていただきまして、今後、我々として、どのようなことができるか、早急に調整のほうをさせていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

猪又政策監（渉外担当）。〔政策監（渉外担当） 猪又悦朗君登壇〕

○政策監（渉外担当）（猪又悦朗君）

ただいまいたしました答弁の補足でございます。

誰が主役かということでございます。新しく4月から組織の再編を行いまして、その中で、市長の下、特に産業労働課、観光課、地域協働課、都市建設課という部署がそれぞれ立ち上がっております。その活動の理念の一つとしては、今ほどの課長が申し上げましたとおり、官、民をつなぐというところでの意識を持って、庁内一体となって進めていくというような形で、これから、今後進めていくということで考えておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

何でこんな話をするかというのは、もともとこの駅北のいろんな取決めのとき、市民会議であるとか、その実践会議であるとか、そういうのやってきたんですね。そこにはいろんなメンバーというか、各部門から代表者がいっぱい出てきたわけですよ。本来そのメンバーが、そういう、何ていうのかな、ここの地域を活性化させていく人を集めるためのプロジェクトとして継続しているのであれば、私こんな質問しないんですよ。それが今見えなくなっているもんだから、再構築されるのかなと。それとも行政が主導でやっていくのかなって、そこがちょっと確認したくて今質問しております。

今の答弁でいくと、何か今そういう組織ができそうなのかなって今捉えちゃったんですけども、それは大丈夫ですか。今年度中につくるとか来年度中につくるとか、そういう話になるんですか。それとも、もうこれまでの市民会議だとか実践会議の中で関わってくださったメンバーを再招集して、新たな人が集まる仕組みというものをやっていくのか、そういう中心となる母体といいますか、機能的に動くような組織といいますか、そういうものが今はないと思ってますので、あるのであれば、そこをまたご紹介いただきたいですし、ないのであれば、私はつくる必要があるんじゃないかな。そうしないと、国から補助金使って、にぎわいづくりであるとか、駅北復興の姿というのが、国にも世間にも、支援していただいた、寄附を頂いた皆様にも伝わらないと私は思うんですけども、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

現時点で、特定の組織、人材を充てるということは、まだ未決定でございます。

これまでにいろんな方々からご提案をいただいて、他で運営している施設の管理運営の仕方とか、一応今までずっと話をお聞きしながら勉強を重ねております。

もう一つは、今回の組織再編において、やっぱり組織の人材を生かす。それと、民との協働をするという意味で、観光課を外に出して、観光協会と融合させていくというやっぱり流れ。オペレーションは、お金を出して、ずっとそれを継続するという部分ではなくて、私の言うやっぱり縮充というのは、自分たちの身内の中でそういうふうなオペレーションができる人たちをどういうふうにして活用していくのか、そういう中において、市民の皆さんとの接点を多くしていくという部分で考えております。

その中で今回、観光協会の今後の運営の仕方等も見据えながら運営の場所に当たる。また、現時点で、委託をしている方々、現時点でもうその費用の捻出がある民間の運営の仕方を、さらにこういうことができるという部分のやり取りをしながら、運営の人材を充てていくというふうに考えていきます。

この駅北にかかわらず、今後の他の地域へのいろんな場所、場所において、そういう部分を考えながらやっていかないと、ただオペレーションをお金をかけてやるのではなくて、どういう形で、縮まる中において充実させてくかという部分の案を出しながら検討しなければいけない。そのために時間の猶予はないかもしれませんが、8年度中にめどをつけてやっていきたい。そして9年、10年と、次の計画に資する部分でもこういうやり方があるんだということを提示できればいいかなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

すいません。せっかく今市長の答弁いただいたんですけど、ちょっと私の中でぼやけてしまっちゃったんですけども、あくまでも私、駅北のエリアのにぎわい、活性化で、そのための、先ほど課長言われたまちづくり戦略というものがあって、その実行部隊が今立ち消えてるんじゃないかってことを心配しております。組織改編して、新たな取組、行政の中、市の中は、私、それでいいと思ってます。行政と、あとその商店街の人たちと、あと地域住民の人たちが、それぞれ役割分担を持つ中で、この駅北の大火から10年たって今の現状があるんですけども、さらにこの5年後、10年後こんなに変わりましたよ、元気になりましたよ。どうぞ訪れてくださいよというようなコンセプトが、何か立ち消えてるんじゃないかということで心配しています。

だからこそ、その行政と商店街の皆さんと、またその地域住民と連携する中で、しっかりしたものを、目標を持った中での人集めという作業をしていく。それさえやってくだされれば、途中経過も報告できるわけですよ。動かないことには何もならない。ゼロなままなので、そこを心配してるので、今回質問の、主体者は誰なのかという大きな聞き方してますけども、当然、皆さんの力で盛り

上げていただかなければいけないので、ただ、それがちゃんと窓口がどこなのか分からないようなことではいけないですし、また、いい成果を上げたとしても、それを発表する、報告する立場の人間がいけないというのもまたおかしいわけですから、そこはきちんと整理して、むしろ情報発信できるような、そういう組織形態をつくってほしいってことなんですけど、その辺ご理解いただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

猪又政策監（渉外担当）。〔政策監（渉外担当） 猪又悦朗君登壇〕

○政策監（渉外担当）（猪又悦朗君）

ご提言ありがとうございました。

先ほど私のほうからも補足としてお話しさせていただきました。庁内、各課ございます。そちらのほう私ども、もう一度、今ほどのご提言を確認するという作業を行いまして、今後必要な行程作業等をまとめていければというふうに考えておりますので、よろしく願いいたしたいと思います。

ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

次、③番の駅北の地域住民によるにぎわいづくりの住民総意、ちょっと特殊な聞き方をさせてもらったんですけども、実は、前に特別委員会で、駅北の関連で4地区の区長さんと話し合ったりとか、青年会議所の方たちと話し合ったりだとか、あと商店街の方とも話し合ったりとかしてきたんですけども、この4地区ですかね、この4地区における統一したようなまちづくりのプランであるとか、何かそういった要請とか、こういう地域、エリアにしたいんだみたいな、住民本位の住民中心の、何か再開発計画みたいなそういうものがあるのかどうなのか。パブリックコメントにしても、いろんな市民説明会を聞いておっても、個々の意見・要望は当然あるんですけども、エリア全体で語られたことって、私、認識ないもんですから、そこをまとめ上げないと、ひょっとしたらまた、市長が心配する住民とのあつれきみたいなものになってしまうのかなと思ってんですけども、そういった地域住民、4地区との整合性を図る取組というのは、もう済んでるのか、これからやるのか、全然それはもう考えてないことなのか、その辺教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎都市建設課長。〔都市建設課長 長崎英昭君登壇〕

○都市建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

今ほどお話ありました4地区の統一プランにつきましては、今の段階で、特別住民本位といえますか、ということでお聞きしてる状況ではございませんので、今後、エリア全体の整合を図るという意味でも統一した見解が必要かと思えます。

先ほどの、庁内の連携もそうなんですけども、それと併せてちょっとこちらのほうどのように進

めていくか、また今後、検討していきます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

あと誤解してほしくないのは、無理くりつくれと言ってるわけじゃありません。4地区の総意として、こういうプランが欲しい、つくりたいということであれば尊重しなきゃいけないという話であって、無理くり保坂が言ったから何かその4地区束ねて何かプランつくらなきゃいけないとかそういうことじゃないので、そこはちょっと誤解しないでほしいんですね。なければならないでいいんです。それはこれまでどおり市民説明会で、個別の要望であるとか意見であるのは当然聞いていただければいいかと思うんです。

ただ、地域住民も駅北にも関係して、ご協力いただいているわけですから、そういったものがあるんであれば、しっかり尊重した中で運営をしていただきたいと思います。

次、④番でございます。駅北の遊び広場についてであります。

これは、本当個人的な思いが強いので、今回うれしかったのは、解放型建物とコンテナスペースの活用というものについては大いに期待をしておるところであります。

子供たちの能力を伸ばすには、様々な体験をすることが有効であると聞いております。また、考える力を身につけるには、様々なことを実際にやってみる。つまり実験ですよ。実験みたいなことをやって、原因と経過と結果を体感する。そういうことが大事だというふうに聞いております。

そこで、子育てに資するエリアということではありますけども、ここの開放型の建物、またコンテナスペースを使ってですね、地域におられる高齢者のいろんな教養のある方、経験のある方が、やっぱり先生役になって、ここでいろんな子供にいろんな体験をさせてあげられる空間にぜひしていただきたいと思います。そういうものについて、施設ができてから、さあさやろうじゃ遅いんですね。施設ができる前からそういった先生方を登録するなり、どんなメニューができるのかと考えた取組をぜひしていただきたいと思います。それは先走りな内容でしょうか。それとも今からもう準備できるものでしょうか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども家庭課長。〔こども家庭課長 室橋淳次君登壇〕

○こども家庭課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

こちらの広場につきましては、「多世代がつながるまちなかの森ひろば」といった形でコンセプトを上げさせていただいております。どちらかというとソフトの運営にしっかりと力を入れて、議員もおっしゃるようなところ、子供たちの体験、そういったところを多くできるようところを考えていきたいと思っております。

ただ、今の時点でですね、そういった指導者が明確にいるかどうかといったところも、具体的な情報は手元にない状況でございますので、これからそういったところを確認しながら、こういった

運営ができるかといったところも、併せて考えていきたいというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

いろんな自治体を見ますとね、学習面とか勉強を教える支援であるとか、英会話の支援であるとか、あと、何ていうのかな、屋内で小さなスペースで、何かこうワークショップ的なことやるのはよくあるんですけども、こう大々的に、このエリアに来ればいろんなメニューがあつていろんな体験ができるというのはあんまりないかと思っております。せっかくの空間なので、そういうところに来てもらって、またヒスイのことも知ってもらったりとか、石拾いのことだとか、そういう文化的なこともいいでしょうし、チームラボさんみたいな書いた絵が天井を動いたりとか、そういう最新技術の体験をさせるであるとか、あと今、砂場も屋内でやる砂場みたいなきれいな砂を使ってやるのもありますし、そういったものを、何ていうのかな、汎用性のある広場なんで、固定なくていいと思うんですよ。もう1年期間、2年期間、3年期間の取組であるとか、スケジュールであるとか、それは本当に汎用性でやっていただきたいし、また、子供たちにとっても、逆に目移りするぐらいの興味をそそるようなメニューを真剣に考えてほしいんですよ。子供だからこのぐらいやるときゃいいだろうみたいなことじゃなくって、その楽しい空間にしていいただければ、私は、この広場は大成功になるのかなというふうに思っております。

そこで、1点ちょっとお願いみたいなことになるんですが、キッチンカーの配置がございます。ここのやっぱり利用者層ってことを考えると、平日はそうは言っても子供なかなか集まらない。であるならば地域の高齢者向けのキッチンカーを配備して、そのお昼のお弁当であるとか、温かいもの、冷たいものを提供できるとか。土日・祝日みたいなところの子供のときには、子供の喜ぶキッチンカーに来てもらうとか、そういうスケジューリングであるとか、お願いする相手先であるとかというのは、もう今からお願いできるかなと思っております、だから喜んでもらえないものを置いてもしようがないわけですから、そのニーズにかなったキッチンカーというものを、やっぱり今からいろんな準備してもらったり、場合によっては市内の方をお願いして、新たにそういうものをチャレンジしてもらうことも必要かと思えます。そういったところのキッチンカーへの取組も、ただ配置がありますよじゃなくて、やっぱりそのメニューとして構築することが大事かと思うんですけども、そういった考え方は、それも市が主導がいいのか、さっき言った新たな組織でやったほうがいいのかちょっと分かりませんが、ぜひそういった観点で、キッチンカーエリアを楽しいものにしていただきたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども家庭課長。〔こども家庭課長 室橋淳次君登壇〕

○こども家庭課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

キッチンカーの利用につきましても、確かに議員おっしゃられるとおり、平日の利用と土日の利



用でそういった利用客層といますか、ところは違ってくることは想定されます。やはり広場のほう、地元の皆さんからも喜んでいただける施設となるように、そのような視点も持って、キッチンカーの配置、また、今後どのような方からそこに携わっていただくかということも、しっかりと検討を進めさせていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

次、大きな2番、ポケモンの活用したまちづくりであります。

今ほど市長の答弁にございましたとおり、株式会社ポケモン自体が今、ポケふたの受付ができないであるとか、ポケモンローカルA c t sのほうもそうなんですけども、ただ、今受け付けないからといって諦めるのではなくて、ぜひ働きかけをしていただきたいと思います。

以前にも言いましたけど、このヒスイとラピスラズリは、もう糸魚川の専売特許といますか、もう優先的なものであります。ぜひ交渉していただきたいと思いますし、あと、ポケモンGOフェストも大きなイベントで、確かに大阪、東京、仙台等あるんですけども、実は、別のカテゴリーとして鳥取県のところでは、ポケモンGOサファリゾーン鳥取というのがありますし、あとポケモンGOワイルドエリア長崎というのもありまして、ちょっと違うランクの低いイベントもございます。要は、もうちょっと低いレベルでもいいので、オリジナルの提案をしていただきたいと思います。向こうのカテゴリーばかりじゃなくて、ポケモンGOフェストについても新潟県全般で考えるようなポケモンGOフェストを提案していけばいいと思います。糸魚川ばかりじゃなくて、新潟県にも、佐渡であったり小千谷市さんもあるんですけど、ほかの自治体だって仲間に入れて、新潟県全体でポケモンGOフェストを成功させたいんですというようなことも、私は提案していけばいいと思います。待ちの姿勢じゃなくて攻めの姿勢でそういったことを活性化させて、糸魚川市と新潟県は面白いことやってるなということで、どんどん来ていただくような取組もぜひしていただきたいと思います。少なくとも交渉に望む姿勢を聞かせていただければと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

ご質問にお答えします。

初めに、ポケモンは海外の人気も高く、そのブランド力ですとか集客力については、私も高く評価しておりますし、使いようによっては、糸魚川の地域振興に非常に役に立つコンテンツであるというふうに捉えております。

今、ヒスイ地方、あるいはラピスラズリというような関わりで、今回コラボできないかということで会社に連絡をさせていただいたところですが、現況ではちょっと厳しいというようなご回答をいただいております。それ以外のつながりをつくる。例えばヒスイやラピスラズリを模したポケモンを新たに作ってもらうとか、そういった方法も含めて、今議員のおっしゃったような新たな切り口

で、いろんなポケモンの事業が展開できないかということについて、県ですとか国ですとか関係市町村もある話になってきますので、その意向を確認しながら進めさせていただければというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

国も県もアニメに関しては、非常に理解があると思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

以上で、質問を終わります。

○議長（古畑浩一君）

以上で、保坂議員の質問が終了いたしました。

この昼休みですね、原水禁の平和行進のスタート式があります。そこに市長も私も来賓ということで呼ばれているわけでありまして、通常でいきますと13時ちょうどにスタートしたいと思うんですが、そこちょっと余裕を持たせていただいて、13時15分というふうにさせていただきたいと思います。

したがって、再開を13時15分といたします。

暫時休憩いたします。

〈午後0時02分休憩〉

〈午後1時15分開議〉

○副議長（保坂 悟君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、和泉克彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

和泉議員。〔8番 和泉克彦君登壇〕

○8番（和泉克彦君）

幸福実現党の和泉克彦でございます。

糸魚川市民の皆様が、この糸魚川に生まれ、住み、この時代に生まれてよかったと心の底から喜べるような真の幸福の実現ができますように心に寄り添い、市民の皆様のお声を市政に反映させていきたいと考えております。

それでは、発言通告書に基づきまして、1回目の質問をいたします。

1、GX脱炭素政策の現状と課題について。

政府は「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けて、「グリーン成長戦略」を推進していますが、太陽光発電などの再生可能エネルギーには、火災や周辺住民とのトラブル、森林伐採な